

# 54 2018年度・新聞報道記事Ⅲ

## 「車いす目線から巡る七尾の旅・2017 in 和倉温泉」

### 和倉温泉観光会館で写真展



車いすでの観光をパネルで紹介している桶屋善一さん(右)＝七尾市和倉町で

#### 車いす目線の和倉撮る

##### 七尾の桶屋さん写真展

七尾市の車いす利用者、桶屋善一さん(64)が和倉温泉のバリアフリーの現状を紹介する写真展が十三日、同市和倉町の和倉温泉観光会館で始まった。桶屋さんは車いすでの和倉観光には課題が残るとして「作品展」で状況改善が進めばと、願いを込めている。二十一日まで。

桶屋さんは、脳性まひで手足と言語に障害があり、同市青山町の障害者支援施設「青山彩光苑」で生活している。

約十年前から市内のバリアフリー化について取材を続けており、今年九月には和倉温泉の写真や感想をまとめた旅行冊子を発行。今回は冊子から抜粋してパネル化した約二十枚を展示した。

旅館については、「スロップが見えにくい場所にある」「客室への移動は介助者がいると安心」など気づいた点を文章で書き添えている。桶屋さんは「取材を通して景観を大事にする旅館でバリアフリー化をする難しさも感じたが、改善はまだ不十分」と指摘した。

展示は午前八時半から午後五時まで。和倉温泉観光協会が協力した。

(中川絢希)

創意工夫を生かした個性的な地域づくり活動を表彰する国土交通省の「地域づくり表彰」で、本年度の国土交通大臣賞に能登井を提供する能登井事業協同組合(坂本信子代表)が選ばれ、十二日に東京都内で表彰式があった。

今年、全国で八団体が優良事例として地域づくり表彰を受賞。表彰式で各賞が発表され、同組合が最高賞に輝いた。

奥能登産の米や水、旬の魚介類や肉、野菜などの食

2018年11月15日「北陸中日新聞」朝刊



在で出勤要請があった2件のうち、1件は運航時間外を基に、年間100件程度の出勤を見込むとした。

#### 車いす目線 冊子で紹介

##### 和倉温泉のバリアフリー調査

##### 七尾の桶屋さん

七尾市青山町の障害者支援施設「青山彩光苑」に入所し、電動車いすで生活する桶屋善一さん(64)が写真展は、同市和倉温泉のバリアフリーの現状を調査してまとめた冊子を完成させた。13日からは和倉温泉観光会館で冊子の内容を展示する。パネル展が始まり、車いすのまま入場できることなどが写真とともに掲載された。桶屋さんが昨年5月、現地で取材した。

冊子はA4判44ページで100冊作った。七尾駅から和倉温泉駅に電車で行く際の乗降車時にスロップが用意されることや、和倉温泉の足湯「妻恋舟の湯」には車いすのまま入場できることなどが写真とともに掲載された。桶屋さんが昨年5月、現地で取材した。

桶屋さんは生後間もなく脳性まひを患い、手足などに障害がある。2008年から電動車いすにカメラを取り付けて市内外のバリアフリーについて調べ、冊子の刊行は今回で3冊目となる。パネル展は21日まで。

2018年11月15日「北國新聞」朝刊